

お檀家の画家望月一雄氏寄贈絵画

十一面千手観音の荘厳具・持ち物(右手と左手)について

前号(一二五号)で、『千手観音の頭上十一面』について解説しました。今回は千手観音の荘厳具・持ち物(腕の前で合掌する二本の手を除いた左右合わせて四十本の手)について解説致します。

荘厳具について

仏像などの装飾を荘厳具と言い、仏体は宝冠、耳飾り、胸綴(きょうてつ)、瓔珞(ようらく)・珠玉を連ねた首飾りや腕輪、条帛(じょうはく)はく・上半身にたすき状にかける布状の着衣)、裳(も)・下半を覆うスカート状の衣類)等の荘厳具を身につけています。

持ち物について

①宝鏡(ほうきょう) 人々の煩惱や迷いを映し出し、それを取り除くための知恵を得ることが出来る。

②月輪(げつりん) 月をかたどった円形の持ち物。「大地の母」、「水の神」として信仰されていた。熱や毒を消す宝の珠。

③経箱(きやうばこ) 衆生の様々な願いを叶え、救済するための「方便の教え」が記されている經典を収める。

④宝珠(ほうじゅ) 「如意宝珠」と呼ばれ、人々の願いを叶える宝の珠。

⑤石化仏(けふつ) 人々を救済する為に観音菩薩が変化して現れる、小型の仏像。

⑥独鈷杵(どっこし) 人間の煩惱を打ち砕くための密教法具で、両端に鋭い刃がついており、邪を払う力の象徴。

⑦経巻(きやうかん) 宝経のことで、仏典そのもの。

⑧三鈷杵(さんこしよ) 古代インドの武器で、人々の煩惱や障害、災難を打ち砕くための法具。

⑨斧(おの) 「えつぷ」とも呼ばれ、煩惱を断ちきる知恵の象徴としての武器。

⑩法印(ほういん) 法輪や宝印を指し、仏教の教えや悟りを表す。

⑪右開蓮(みぎひらく) 蓮の花が開き、悟りを開いた状態を意味する。



⑫宝箭(ほうせん) 矢のこと。弓に対する法具で悪を退け災いを払い、良き縁に巡り合うといった、靈験を表す。

⑬葡萄(ぶどう) 葡萄は一房に沢山の実をつけることから豊穡を意味し、その栄養価の高さから健康や病氣治癒の願いが込められている。

⑭柳(やなぎ) 楊枝と呼ばれ、病魔の侵入をふせぎ健康を願う意味がある。

⑮胡瓶(こびょう) ペルシャ風の水瓶で、中に溜めた功德の水(仏の教えや恵み)を衆生に与える。

⑯右未開蓮(みぎひらく) まだ蓮が開花していない状態で「修行中の身」であることを意味し煩惱に囚われた私たちの中に眠る悟りの可能性を開花させようとする、慈悲と救済の意思を象徴している。

⑰数珠(じゆず) お題目やお念仏を唱える回数を数えるもので、煩惱が消滅し、功德が得られる。

⑱錫杖(しゃくじょう) 先端に輪がついた杖で、歩くたびに「シャンシャン」と音をたてて、厄災や魔を払い、毒蛇や害虫から身を守る法具で、音によって人々の心の悪を払い、善心と呼び起こす意味を持つ。

⑲右鉄鉢(てつぱつ) 仏教修行者が食事の際に使用する食器。宝鉢(ほうはつ)とも呼ばれ、鉄製または木製の鉢。

⑳鉢(ぼ) 宝戟(ほうげき)、宝棒(ほうぼう)と呼ばれる棒状の武器。鬼神などを従わせる力や悪を退散させる象徴。

㉑日輪(にちりん) 一般的に宝鏡(ほうきょう)と呼ばれ、太陽の光を象徴する宝珠。太陽の光が闇を照らすように、人々の心の闇を照らし、煩惱を払うことを象徴している。

㉒宮殿(くうでん) 浄土にある宮殿。

㉓左化仏(さけふつ) ⑤の解説と同様。

㉔輪宝(りんぼう) 仏宝の象徴である「法輪」のことで、障害を打ち砕く力を持っている。俗悪な説を論破する力になぞられ、刃を備えた車輪の形をしている。

㉕雲(くも) 「五色雲」を指し、不老長寿の象徴とされている。仏教における五色雲は、白、黄、赤、黒、青の五色で薄く輝く雲のことで、良いことの前兆を示す「彩雲」や「瑞雲」とも呼ばれている。五色の意味は、白(まこと)、黄(精進)、赤(心に強く留めること)、黒(雑念を払い心を清らかにする)、青(悟り、知恵)。

㉖五鈷鈴(ごこりい) 密教で使われる法具で、五鈷杵の形をした柄に鈴が取り付けられている。澄んだ音色は煩惱や邪気を払い、空気を清めて心を落ち着かせるといわれている。魔除け、悪事災難から人々を守る力があるとされる。

㉗貝(かい) 一般的には法螺貝を指し、楽器として使用。その力強い音色で衆生を呼び覚まし人々を救いの道へ導く。

㉘鉄鈎(てつこう) 「龍神」を降伏させるための道具。「龍神」は水、風、雲、雷などの自然界を司る神で、古来より日本では雨乞いや豊穡、自然災害からの守護神として信仰されている。

㉙左開蓮(さひらく) ⑪の解説と同様。

㊀勤環(きんかん) 「玉環」ともいわれ、円満や広大な救済の力を象徴している。

㊁宝剣(ほうけん) 煩惱を断ちきるための「三鈷剣」のことで、悪や迷いを断ち切る宝剣。

㊂払子(ほつす) 煩惱や迷いの心を払う法具。

㊃髑髏宝杖(どくろほうじょう) 鬼髑髏のついた杖。鬼神を操る力や人間の生のはかなさを悟らせ、内省を促す象徴。

㊄宝弓(ほうきゅう) 右手に持つ「宝箭」と対になる武器で、「宝弓」は榮譽をます利益があり、「宝箭」は良き友に巡り合う利益がある。さらに、悪魔を退散させたり、災いを避ける力があるとされる。

㊅左未開蓮(さみひらく) ⑯の解説と同様。

㊆水瓶(すいびょう) 軍持(軍事)とも言われる。清めるための清なる水が入った容器で、仏の世界に生まれ変わることを象徴している。この水は人々を苦しみから救い出す慈悲の心を現している。

㊇索(さく) 縄索(けんさく) という縄(ロープ)のことで迷い苦しむ人々を確実に救い上げるための道具。

㊈盾(たて) 傍牌(ぼうはい) といった、盾のような役割があり、悪い獣を遠ざける。

㊉左鉄鉢(さてつぱつ) ⑲の解説と同様。

㊊施無畏印(せむいいん) 衆生の恐れや不安を取り除き、安心させるという仏・菩薩の慈悲と力を象徴的に表した印相(手の形)。

・意味・・・「畏(おそ)れを施しなくす」すなわち「畏れなくともいいよ」と励まし、衆生が抱える一切の煩惱や恐怖心を取り去り、安樂を得させるという意味が込められている。

・手の形・・・一般的には右手の五指を揃えて伸ばし、手の平を正面に向けて肩のあたりに上げる形で表される。

・由来・・・仏伝によると、釈迦がかつて凶暴な象に襲われた際、この手の形を示したところ、象が即座に鎮まったという故事に由来するとされています。